

熊本大学工学部情報電気工学科 式辞

新入生、編入生みなさん、熊本大学工学部情報電気工学科へ入学おめでとうございます。本日、みなさんが情報電気工学科の一員となることを、教職員一同を代表して、心よりお祝い申し上げます。

みなさんはこれから本学科で情報電気に関する基礎を学んでいくことになります。高校までの勉強では問題集を解いてテストの点数を如何に多くとり順位を上げるということが目標だった人もいたかと思います。しかし、大学での勉強はこれまでとは違います。みなさんが自分のために主体性をもって勉強して、社会の中で自立していくための勉強期間となります。

とはいっても、そんなに恐れることはありません。実は社会で求められることは、誰よりも勉強ができる・仕事ができる、ということではなく、一定のレベルを満たせば十分に社会の役に立ちます。すなわち、世界中に自分よりも能力が高い人はいくらでもいるわけで、これはわれわれ教員も状況は同じです。では、この一定のレベルとは何なのでしょう。これは本情報電気工学科のカリキュラムをしっかりこなして卒業できるレベルになればよいのです。

そのなかで、1つみなさんに身に着けてほしいことがあります。それはあらゆることや状況に楽しみを見出す能力です。講義がよく理解できる、勉強が続くという人は、それを楽しんでやっているからです。楽しいとまた勉強をしたくなる、というポジティブな循環になります。逆のこともいえます。講義が理解できなく勉強が続かないのは、それが楽しくないからです。したがって、みなさんはこれから学ぶことに対して、なんらかの楽しみを見出す力を身に着けてほしいです。

そのためのヒントを出したいと思います。これから皆さんが学ぶこと、たとえばシャノンの情報理論、マクスウェル方程式、量子力学といったことは80年ほど前のことを、天下りの的に圧縮して短期間で学びます。これは非常に効率的なのですが、みなさんはなぜわざわざこんな難しいことを考えるのか、なんの役に立つのかと疑問に思うかと思います。しかし、当時はそのような理論がなく、実際問題で非常に困っていて、必要に駆られて試行錯誤や苦勞の末に生み出されたのです。シャノンは20歳くらいのときに論理回路理論を生み出して、みなさんとそんなに年齢が違わないです。このように、当時の時代背景や、なぜこのような理論が必要になってきたのか、という歴史背景を考えてみることも、学問の楽しみを見出す1つのきっかけになると思います。

みなさんは、まだ将来何をやりたいのか、何になりたいのか、という人生目標が定まっている人はほとんどいないと思います。私もそうでした。これから勉強をして、その中で楽しみを見出し、そこから自分が本当にやりたいことを見つかることができればと思います。その際に、情報電気工学学科に来てよかった、と思っていただけると本望です。

私からは以上となります。あらため、本日は、熊本大学へのご入学、誠におめでとうございます。

令和7年4月4日 熊本大学工学部情報電気工学科長 上瀧 剛